こえび新聞

2016年（平成28年）
12月20日
発行

瀬戸内国際芸術祭サポーター
こえび隊

「こえび新聞」は芸術祭を支えるこえび隊がつくる、島の人々、アーティスト、お客さんをつなぐ新聞です。芸術祭の話、島々の話、こえび隊の話……。瀬戸内の色々な出来事を発信しています。

発行元：特定非営利活動法人
瀬戸内こえびネットワーク
編　集：こえび新聞編集部
〒760-0019 高松市サンポート1番1号
TEL 087-813-1741
Mail info@koebi.jp
Web http://www.koebi.jp
twitter.com/koebitai
www.facebook.com/koebitai

こんにちは。こえび新聞編集部です。瀬戸内国際芸術祭2016が閉幕し、芸術祭中賑やかだった港や島々はいつもの穏やかな日常に戻っています。私たちこえび隊はその後も、豊島で毎月「島のお誕生会」を開催したり、島の行事に参加したりと継続的に活動しています。コツコツと島へ通い、いろんな縁を繋げながら次に向かってステップアップ中です。さて、今回の特集は、芸術祭の活動に参加し、支え、関わった様々な立場のみなさんを紹介します。裏面は、瀬戸内アーカイブシリーズ、とんど焼きの特集です。

KOEBI TAI

こえび隊が出会った 芸術祭を支えていた“この人”たち

犬島
小豆島
豊島
宇野
直島
男木島
大島
女木島
高松
櫃石島
岩黒島
与島
瀬戸大橋
瀬居島
沙弥島
高見島
粟島
伊吹島

食・文化・国際化・各島・各港で
いろいろなかたちで芸術祭を
支えていた方々にお話を伺ってきました。

質問❶ 芸術祭2016でどんなことをしましたか？　質問❷ 感想をお願いします！

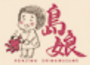
中島伽耶子

アーティスト
茨城県取手市

❶高見島に滞在し、作品をつくりました。2013年に制作した「うつりかわりの家」は室内をぼんやりと照らし出す光、新作の「時のふる家」は鋭く、突き刺すような光を目指しました。変化する自然光を素材としながら、まったく違うアプローチで家を見せる作品を同時に展示できたのは嬉しい経験となりました。

❷私は空家を使うことにこだわりを持っています。放置されている家が少しずつ保存され、島に残る石垣の町並み保存に繋がることを理想としているからです。2013年からの顔見知りも多く、畑の野菜やその日にとれた魚をたくさん食べさせてもらいました。制作場所をのぞきにくるおばあちゃんとのおしゃべりに、たびたび励まされたものです。

芦内里美、大江員代、大石弘子



島娘
香川県丸亀市本島
←大石さんそっくり!?の島娘のロゴ

❶秋会期中、本島港横にある「島娘」というお店を島の女性3名で切り盛りしたのよ。タコめし、タコの天ぷらなど島の新鮮なタコを使った手作りメニュー が来島者からも島民からも人気だったわ〜。

❷今回は「お弁当」と「たここロッケ」を新メニューとして提供し、大好評でした。秋会期後半に「たここロッケ パン」にも!毎朝5時半から準備したので大変だったけれど、3人で毎日楽しく元気に営業できました。2013年のときに本島で島スープを作ったEAT&ART TAROさんも来てくれて嬉しかったです!こえびさんが書いてくれたかわいらしいメニュー看板やシールも好評で、大石さんそっくりのイラストと記念写真を取っている人もいました。芸術祭が終わったらやっぱり寂しいですねぇ。

村上モリロー

瀬ト内工芸ズ。／部長
38歳
香川県高松市

❶女木島で「feel feel BONSAI」という作品を出展しました。秋は「島BONSAI」と題し、島の方々よりご提供いただいた器をお借りし、その器を使って盆栽を作るワークショップを開催。約90個の盆栽が完成。会期後、一軒一軒巡って盆栽をお返しすることで、女木島は盆栽所有率No.1の島になるというストーリーです。会期中、メンバーが当番制で会場に入り、盆栽の手入れや会場の掃除、水遣りなどを行いました。おかげで島の方々と、とても仲良くなれました。

❷島の皆さんから「見に来て良かった」「今までで一番良かった」と言っていただき、とても感慨深いものがありました。 芸術祭は終わりましたが、僕らはこれからも地元の香川県に残って活動をもっと広げていきます。

「島BONSAI」のワークショップで盆栽を制作中

中道洋子、中道 靖

元こえび寮／寮母、寮長
42歳、43歳　岡山県

❶寮長寮母として、遠方から活動に来るこえびさんのための高松市内の無料の宿泊施設「こえび寮」を運営していました。

❷本当に楽しく充実した時間でした。人が変われば寮の雰囲気も変わります。こえびさんの動きも日々違っているので、毎日が新鮮でした。海外こえびさんがかなり増えたので、日本にいながらにして、海外にいるような雰囲気でした。共同キッチンでは各国の郷土料理が振る舞われ、英語中国語日本語などの言語が飛び交い、とても賑やかでした。たくさんの方からお礼の手紙やメッセージをいただいたのも嬉しかったです。

合田治榮

香川県観音寺市伊吹島
75歳

❶秋会期の伊吹島で食堂「うららの台所」を開いたのよ。芸術祭の食プロジェトの一つで「うららの玉手箱」という伊吹島の名産いりこをふんだんにつかった料理やお魚を詰め込んだお弁当を提供したの。私はほぼ毎日主にいりこ飯を作ったわ。お弁当は公民館やみかんぐみのアート作品「いりこ庵」で味わってもらいました。

❷伊吹島内のお母さん21名（平均年齢70歳以上）と若い女の子4名の合計25名に声をかけて、島のみんなで協力して調理や販売をしたのよ。こんな大勢の地元の人々と一緒に働けたのはとても楽しかったし良い関係が築けたね。忙しかったけれど多くの方に伊吹の味を知ってもらって嬉しかったよ。

田口隆司・山口真澄

大部公民館／館長
大部地区協議会／会長
香川県小豆島町大部

❶大部地区に初めてできたリン・シュンロンさんの作品制作を手伝ったよ。台湾のチームが来日してから材料の砂を集めたり、パイプや芯棒を運んだりしたね。それから人形作り。型に入れる砂のレシピを大部の気候に合わせるのが大変だった。1日に12〜20体、全部で196体作ったよ。

❷何度か懇親会もして、国際交流もできたよ。台湾のボランティアの何人かは日本語ができ、漢字でコミュニケーションをとれたので、困ることはなかったね。台湾の若い人たちは真面目でよく動く。リンさんよりよく仕事をしていたね〜（笑）。彼らやこえび隊が一生懸命頑張っているのを見ていると、自分たちも頑張ろうという気になった。大部の名前も広く知ってもらえたし、何より参加して楽しかったです。

リン・シュンロン「国境を越えて・潮」。浜辺に子どもの像が並んだ

田島征三

アーティスト
76歳
静岡県伊東市

❶秋会期に大島にオープンした社会交流会館に看板を建てました。看板には島の浜で拾ったシーグラスやレンガのかけら、貝殻を集めて付けました。これらの作業は県内外から来た親子連れなどが一緒にやってくれました。玄関前の看板は銀杏の板を直径19mmの鉄の棒と庵治石が支えています。それを大量の着色された流木が押し上げるように支えています。

❷社会交流会館は、入所者の方々、広く島外の人々が交流できる場所です。親しみのあるネーミング考案を入所者さんと職員さんにお願いしました。すると「よってんまい」という素敵な地の言葉が浮かび上がってきたのです。親子や家族が楽しそうに看板をつくっていました。その場所に入所者の野村宏さんが来て、レンガと思い拾ったものが、かつての屋根瓦だったとか、大量のシーグラスが西の浜辺にある理由を話してくれました。野村さんの話を聞いている親子の姿。部屋中に「よってんまい」が、かたちになって現れていました。

福井大和

男木島連合自治会／会長
40歳
香川県高松市男木島

❶Uターン後、男木島民としてはじめての芸術祭でした。前回の芸術祭からいろいろな面で注目をされていたので緊張はしましたが、いざ始まってみると、あっという間の108日間でした。28年度からは連合自治会長としても関わり、実行委員会やこえび隊、地域の方の協力がないと成り立たない事を痛感しました。アジアのパフォーマーがやってきた「APAMS2016」や昭和40年会の展示協力、2年に一度の夏の大祭もあったので、全力で駆け抜けた感じがありました。

❷夏のAPAMS2016参加のアーティストが我が家にショートステイしたのが印象に残っています。慣れない英語でしたが、楽しい食卓を囲み、本番のパフォーマンス時にステージにもあげてもらい、最高に楽しむ事ができました。

香港のアーティスト オン・ヨン・ロックのみなさんと一緒に

橋詰敦夫・木咲豊

有限会社明るい部屋／
ガーデナー、プランナー・デザイナー
58歳、40歳　岡山県犬島

❶建築家・妹島和世さんと共同企画で「犬島くらしの植物園」を立ち上げました。ここは、珍しい植物がたくさん展示されている一般的な植物園ではなく、食べ物からエネルギーまで自給しながら「これからのくらし方」を考えていくコミュニティスペースです。庭園や菜園はもとより、植物や微生物の力で水を浄化する仕組みや、生ゴミを堆肥化するエコシステムなど、島に残る廃材などを活用して、ゲストの方達といっしょに「手づくり」していきます。

❷私たちは東京で活動していましたが、このプロエクトのために犬島へ移住してきました。4,500m²もの広さのある敷地は、人が隠れるほどの高さの雑草が生い茂り、掘れば掘るほど石がゴロゴロ出てくるような荒地でしたが、こえび隊をはじめ、島民や多くのボランティアの方達のご支援・ご協力をいただき、何とか会期に間に合ってオープンすることができました。「みんなでつくる」植物園として、最高のスタートが切れました。

十川みつる

讃岐獅子舞保存会／会長
45歳
香川県さぬき市

❶11月3日に高松港大型テント広場、アート広場で「獅子舞王国さぬきin高松港」を行いました。讃岐の獅子組63組が集結。西は多度津町の山階北山獅子組から、東は香川県指定無形民俗文化財の東かがわ市白鳥虎頭舞保存会をはじめ坂元大獅子まで県内の様々な獅子が集まりました。また、子ども達と段ボール獅子頭作りワークショップも行い、小さな獅子つかいが100名誕生しました。

❷県内以外の多数の皆さんにご覧いただき、さぬきの獅子舞を広く発信し、多くの方に知っていただくことによって、保存につなげることができます。芸術祭や地元のお客さん、参加獅子組の皆さんの笑顔が絶え間なく溢れ、大変素晴らしい時間でした。

Photo:Shintaro Miyawaki

武田奈美代

地元ボランティア
（愛育委員）
47歳　岡山県玉野市

❶宇野港で夏会期から淀川テクニックさんの作品山本勘也さんの作品受付に参加しました。作品受付をする予定の日に、急遽「宇野コチヌ」制作のお手伝いに活動内容を変更。昼まで活動の予定が、作品制作にのめり込み、夜8時まで残業（!?）したことも。

❷作品受付では、自分の住んでいる街にいながらにしていろんな人に会えることが楽しかったです。座っているだけでも、行きかう人や船を眺めるなど、素敵な時間の過ごし方ができました。コチヌ制作時は、一緒に活動しているこえび隊と話ができ、いろいろな島を回っていることに驚くと同時に、熱く島や作品の魅力を語る様子を見て聞いて、これまで何も知らずにいたなんて、なんてもったいないことをしていたのか…と感じました。印象に残っているのは、作品鑑賞に来る人も、こえび隊のように芸術祭を手伝う人も、みんな芸術祭が大好きなことです。

みんなでゴミのパーツを付けて、コチヌを仕上げました

高尾義明

沙弥島自治会／会長
79歳
香川県坂出市沙弥島

❶沙弥島で、地元とアーティストを繋げる活動を行ないました。特に、2013に引続き2016も参加してくれた五十嵐靖晃さんの作品「そらあみ」には最初から関わりました。

❷与島連合地区の与島、瀬居島、岩黒島、櫃石島、そして沙弥島の5つの島は、何かないと会うこともほとんどありません。各島でつくった「そらあみ」を一つに合わせたときに「人」と「島」との繋がりが今回もできたことが一番の喜びです。他の島の皆さんも喜んでくれたのではないかと思います。五十嵐さんの人柄、そして作品はさすがだなあと思いました。

中村伸次

漁師
39歳
香川県坂出市岩黒島

❶「そらあみ」の作品づくりに参加しました。アーティストを全力でバックアップし、お客さんやこえび隊がそらあみワークショップに参加したときは、編み方を教えました。

❷今回もアーティストと一緒に関われたことは嬉しかったです。岩黒島でもワークショップをして、いろんな人に島の名前を知ってもらえたし、良い機会に巡り会えたと思います。次回は、芸術祭に岩黒島も参加したいです!

本島で行なわれた瀬総10島そらあみ合体式にて

立石 肇

一人観光課
香川県直島

❶2001年に直島で開催していた「直島スタンダード」の前から一人観光課だね。観光協会や役場とは関係なく一人で観光のことをしているよ。今回は、道案内や交通整理、案内全般をしたり、バスに乗り遅れた人がいたら送ってあげたりもしたよ。

❷印象に残っていることは、一日一回芸術祭の作品である旧青木衣料品店にお客さんを引っ張っていたな〜。今年はアジア、特に中国の方が多かったね。高いお金を払って直島に来ているお客さんに気持ち良く帰って欲しいし、芸術が分かる人も分からない人も島に来て楽しんでくれるのが嬉しかったよ。

酒井啓介

檸檬ホテル／支配人
38歳
香川県土庄町豊島

❶瀬戸内国際芸術祭の作品の中では、初めて宿泊できる作品を豊島につくりました。お客さんには、島に来たらゆっくり滞在してもらいたいし、島の良さを知ってもらいたい。豊島に来るきっかけづくりになったら良いなあと思います。

❷ここは「作品鑑賞、泊まる、食べる」の3つの要素があることで、お客さんはもちろん島の方など人と人を繋いでくれる場所になってきました。島の方から「檸檬ホテルの人ね、知っているわよ」と名前を覚えてくれる方も増えてきました。これからもこの場所を通して、自分たちの身の丈に合ったやり方で、地域に寄り添いながら継続してやっていきたいですね。

築90年の民家を再構築し、一日一組が宿泊できる場所

林　則子

こえび隊
65歳
香川県三豊市

❶粟島で制作や受付のお手伝いに参加しました。芸術祭が始まる前までは、3・4回しか粟島へ行ったことがなかったのですが、終わってみると2か月間で10回も行っていました。

❷こえび隊は夫が見つけてくれて、丸亀で開催された説明会に行ったのがきっかけでした。空いている時間を使って活動ができるし、家からも近く生活の範囲内に港があるので参加しやすかったです。未知との遭遇のような、「なんとかしなくちゃ!」という違うものにチャレンジするような感じで、いつもワクワクしていました。人と出会えて、なんでもないことに感動して、いろんな人の姿を見ることができて楽しかったです。これからも機会があればまた参加したいです。

制作と受付に入ったエステル・ストッカーの作品

イアラのお母さんたちとシェフ

香川県高松市女木島

女木島のレアンドロ・エルリッヒ作品に併設されている「レストラン イアラ 女木島」で働いていました。

ルアさんとお母さんたちが作る瀬戸前寿司

三井 豊　70歳
朝から料理の仕込み、営業中は洗い場に入っていました。お客さんが喜んで帰ってくれて嬉しかったけれど、海外の方が少し残しているのを見て残念だったわ。

大江洋子　68歳
三井さんと同じく朝から料理の仕込み、営業中は洗い場に入っていました。若いこえび隊の人やお客さんなどいろんな人たちとお話ができて楽しかったわ。

中小路敏子　77歳
料理で使う魚を洗ったり、翌日の仕込みをしていました。イアラの料理は分かりやすかったけれど、今まで見た事のないような珍しい料理もあって面白かったわ。

ソウダルア
出張料理人
36歳　東京都

春夏秋と通して働けたことで、瀬戸内の食材やそのお店の人たち、女木島で暮らす人たち、芸術祭のお客さん、こえび隊、芸術祭関係者の方々、高松で働く人たちと多様性を持って、繋ぎ、繋がれたことが、最も印象的で、僕自身のこれからにも大きなものをもたらしました。ありがとう。これからも繋がっていきましょう。